

K.T. 2019年卒 地域マネジメントコース

こんな学生時代を過ごしました

ぼくは、どちらかと言うと、意識の高い学生だったと思います。まちづくりという、大きな概念のようなものに希望と可能性を感じていたし、実習活動や学外のイベントにも積極的に参加していました。門司実習で学んだことはたくさんあるけど、中でも大きかったのは、「まちづくり」の解像度が一気に上がったことです。これは良い意味だけではなくて、ぼくはまちづくりはみんなが望んでいるものだと思っていたけれど、実際は、地域には地域なりの事情があって、希望を抱けない人もいるし、外から来た若者を煩わしく思う人もいます。そしてそれを、隠さずに伝えてくれる人もいます。手伝ってくれると当たり前と思っていた自分はなんて烏滸（おこ）がましかったんだらうと、実習を終えてから反省したことを覚えています。一方で、そんな中でも前向きに応援してくれる人たちが確かにいて、背中を押してもらっていました。地域の未来を想い、次世代のことを考え、リスクをとってチャレンジする大人の姿を見て、カッコいいなあと思う人がたくさんいました。当時は、リスクとかよく分かってなかったけど。笑

実習活動では、イベントやプロジェクトを企画することがメインでした。実習以外でも仲間とお祭りに出店することも経験したし、大人の集まるコミュニティに参加したり、東京であった学生向けの6日間のイベントにも参加したりと、いろんな経験を重ねて、ネットワークを広げ、自分の枠が広がるような感覚は楽しかったです。

入学するときから、いつかは鹿児島県に帰ると決めていたので、4年生の後期に休学して鹿児島県に戻り、「地域と若者を繋げる」をテーマに、合宿イベントや就活イベントを企画しました。まちづくりを仕事にしたい!と思うようになったのもこの頃で、地域に希望がある、というより、自分たちで未来を手繰り寄せようと、泥臭く動いている大人たちに魅せられて、「彼らのつくる鹿児島県の当事者になりたい」と強く思うようになり、大学卒業後、鹿児島県で働くことを決意しました。



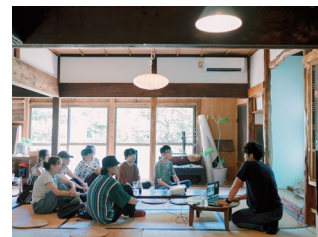
門司実習の1年生企画で、フルーツポンチをラーメンフェスタで販売しました。予想以上の売上でしたが、「振り返り方」を先生にフィードバックされたことは今も覚えています。

卒業後こんなキャリアを歩んでいます

卒業後は、新卒フリーランスとして鹿児島県に戻りました。すでに立ち上がっていた学生団体を続けたかったのと、インターン先のまちづくり会社がフリーランスの集合体だったので、選択肢として“フリーランスしかなかった”というのが正直なところです。（別にフリーランスになりたかったわけではありません。笑）

まちづくり会社は結局2年間で卒業し、学生団体だった組織を2021年に法人化しました。今は、NPO法人の理事をしていたり、複数の企業から業務委託でお仕事をいただいたり、コミュニティを越境しながら働いています。まちづくりや社会教育が得意分野で、専門性はファシリテーションにあるのですが、今一番力を入れていることは、大学生向けの1年間の教育プロジェクトで、鹿児島県の学生を対象に、鹿児島県全域を学び舎に見立てて、自分の人生と向き合う1年間を過ごすコーディネートをしています。他にも、シティプロモーション、ジェンダー平等、環境、アントレプレナーシップ、人材育成など、さまざまな領域で場づくりを行ってきました。

最近では平和に関する活動や本を作り始めてもいます。今後のビジョンは、大学生向けのプロジェクトをより多世代が関わり合う取り組みに展開していきたいと考えています。



鹿児島県の離島「甌島」に学生を連れてフィールドワークに行った際の写真です。その地域にいる間に、地域の大人や文化に触れることを大切にしています。

現役生へのメッセージ

社会には、少し理不尽だなあと思う構造があります。個人としての思いや夢や大切なことを問われる一方で、組織や社会の一員としての立ち振る舞いをどこまでも求められることがあると思います。地域創生学群は、それを議事ではなく、リアルに体験できる貴重な学び舎です。地域に関わるということは、「わたし」とつながり、「わたしたち」を意図するということ。どうか、地域を楽しんでください。